

開き戸(両開き)①

商品特長
商品一覧

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり
- 有償部品

特注対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

■施工される方へのお願い

- 本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。
- ▲注意 ……取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う危険及び物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 扉の脱落の原因になるおそれがあるため、下記事項をお守りください。
- 扉の吊込みを行う場合は、扉の丁番カップが枠側の座に「カチャ」と音がるまではめ込んでください。扉の落下の原因となります。

■施工上のお願い

- 枠取付けの際は、水準器・下げ振り等で水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤を塗布してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や枠の垂下がり・ゆがみ等の原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 本体を吊込みの際には、丁番3枚吊り、4枚吊りの扉は、最初に中間の丁番を取付け、次に端部の丁番を取付けてください。また、扉を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。
- 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まくさとの間には必ず隙間をつくり、かい木をいれてください。かい木には、合板等の乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 下枠の納め方に応じて縦枠を切断してください。

■縦枠の切断

薄下枠	切断不要
埋込下枠	切断(12mm)

■部品セット一覧

■本体部品セット

部品名称	把手	把手取付けねじ トラス小ねじ M4
呼称 0709・0712 0809・0812	2	4 (ねじ長さ25)
0718・0818	2	4 (ねじ長さ25)
0720・0723 0820・0823 1220・1223 1320・1323	2	4 (ねじ長さ30)

■枠部品セット

部品名称	枠組立てねじ DNビス (皿木ねじ) φ3.8×65	枠取付けねじ 皿タッピンねじ (頭シート&溝部) φ4×50	戸当たり	戸当たり 取付けねじ ナベタッピンねじ 1種φ3.5×16
呼称 0709・0712 0809・0812	4	11	1	2
0718・0818	4	13	1	2
0720・0723 0820・0823	4	15	1	2
1220・1223 1320・1323	4	16	1	2

■下枠部品セット

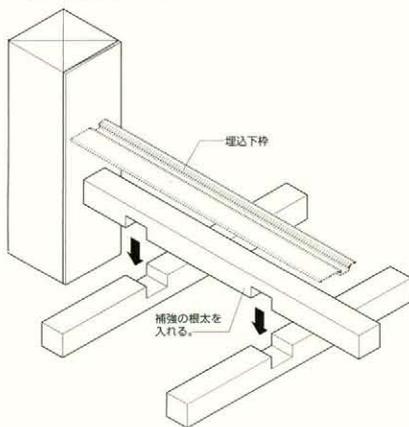
下枠種類	枠組立てねじ DNビス (皿木ねじ) φ3.8×50	枠取付けねじ 皿タッピンねじ 1種φ3.5×50	縦枠下部ビス 取付けねじ 皿タッピンねじ 1種φ4×20
薄下枠	4	-	-
埋込下枠	-	2	2
埋込下枠 (W12, 13)	-	3	2

■床の張り方

(床先張り(枠後付け)の場合)

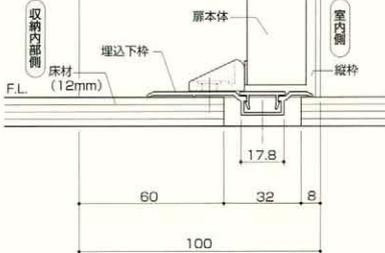
1 埋込下枠下地の確認

- 枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や扉開閉不具合の原因となります。



2 床張位置(床の張込み)

- 下図の位置に32mm(最小開口25mm)あけて床材を張ってください。



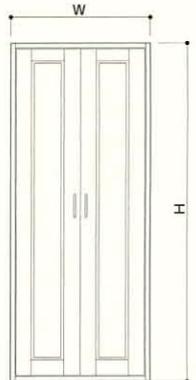
【お願い】

- 床材は必ず図の位置に張込んでください。床材の開口寸法が大きすぎたり狭すぎると、床の隙間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。

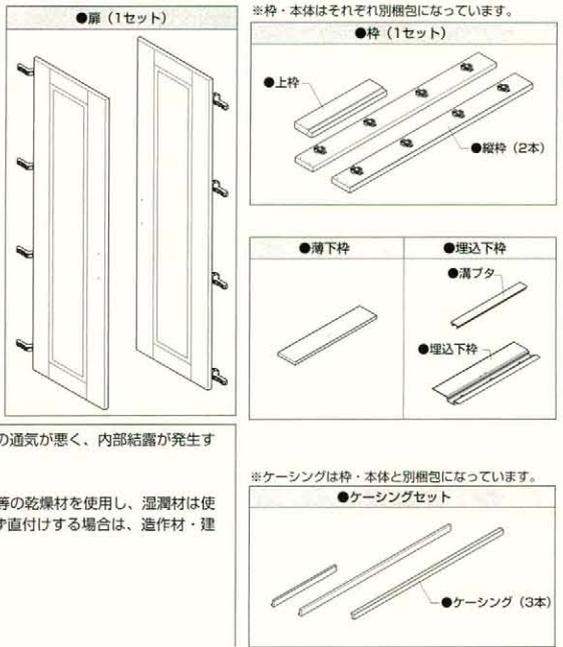
■開口部の作成

- 開口部を作成します。
- ※開口部寸法は下記寸法で作成願います。

開口H方向: H+5mm
開口W方向: W+10mm



■各部の名称



※枠・本体はそれぞれ別梱包になっています。

※ケーシングは枠・本体と別梱包になっています。

商品特長
商品一覧

室内ドア

室内引戸

可動
間仕切り

クローゼット
ドア

玄関収納

造作材
(DS窓枠)

造作材
(定尺材)

腰壁

収納

手すり

規格表

室内ドア

室内引戸

可動
間仕切り

クローゼット
ドア

玄関収納

造作材
(DS窓枠)

造作材
(定尺材)

腰壁

収納

手すり

有償部品

特注対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

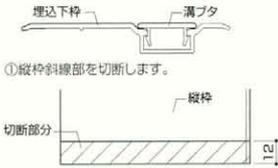
用語解説
索引

■取付け詳細

1 枠の組立て

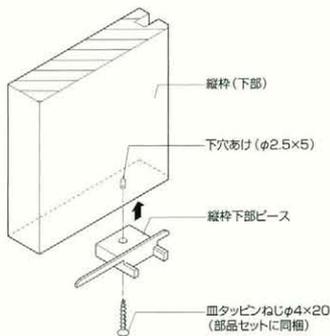
(床先張り(枠後付け)の場合)

※埋込下枠セットを使用してください。



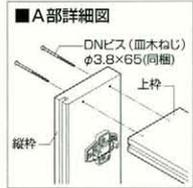
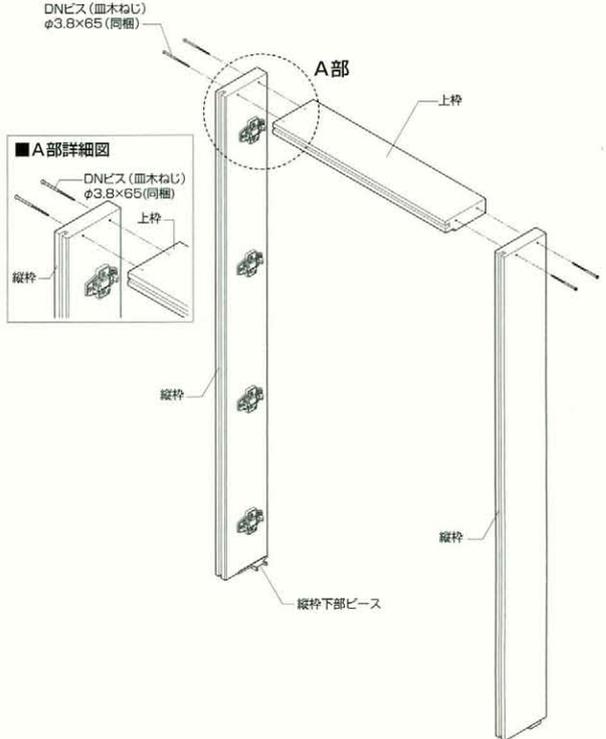
①縦枠斜線部を切断します。
切断部分

●切断寸法(12mm)は、H09の場合、床上面(F.L)から上枠上端までの寸法を878mm(H12=1178mm、H18=1823mm、H20=2023mm、H23=2306mm)にする場合を示します。
※現場の納まりによって加工寸法を決めてください。
※扉の下木口と床面の隙間を10mm以上あけるような納まりは、戸当たり部品が機能しなくなりますのでご注意ください。



②縦枠に縦枠下部ピースをねじ(皿タッピンねじφ4×20)で固定します。縦枠に下穴(φ2.5×5)をあける時は、取付説明書に載せてある型紙を使用して位置出しをすると簡単にあげることができます。

③上枠と縦枠を、DNビス(皿木ねじ)φ3.8×65で止めて枠組みします。



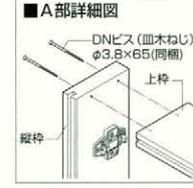
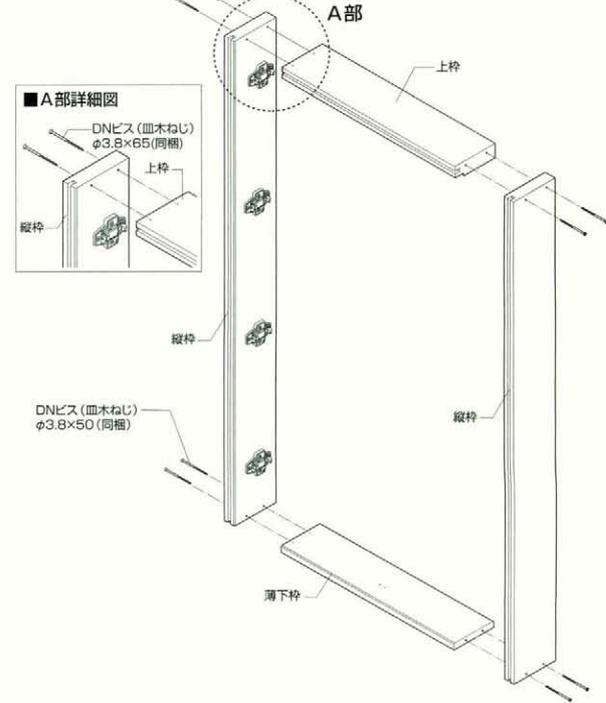
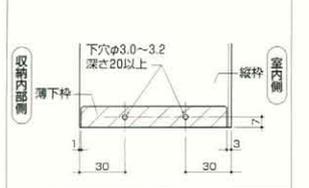
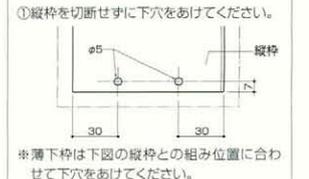
(床後張り(枠先付け)の場合)

※薄下枠セットを使用してください。



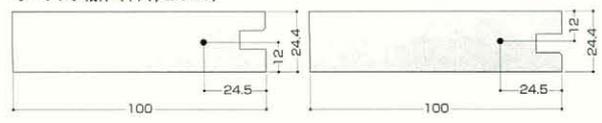
①縦枠の下端にφ5、薄下枠にφ3.0~3.2、深さ20以上の下穴をあけます。
②上枠・薄下枠と縦枠を、DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で止めて枠組みします。
※薄下枠を組み合わせる際、組み合わせ面を水平に調整した後、DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定します。

(薄下枠取付け部詳細図)



●縦枠下部ピース取付け穴加工位置

・ケーシング縦枠(下穴φ2.5×5)



開き戸(両開き)②

商品特長
商品一覧

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- 可動
間仕切り
- クローゼット
ドア
- 玄関収納
- 造作材
(DS窓枠)
- 造作材
(定尺材)
- 腰壁
- 収納
- 手すり
- 有償部品

特対対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

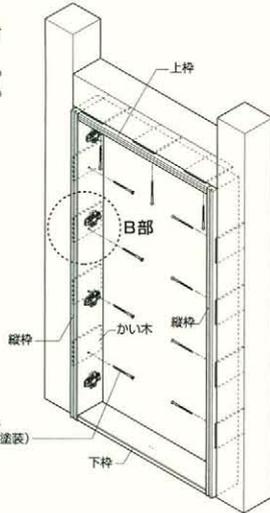
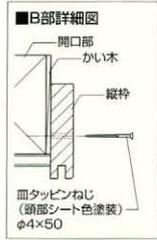
組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

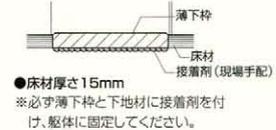
② 枠の取付け

① 組立てた枠を、開口部に取り付けます。
※取付けねじ(皿タップピンねじφ4.0×50)と同じピッチになるようにかい木を入れます。

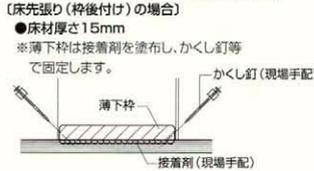


② 下枠を躯体へ固定します。

(薄下枠の場合)
●床材厚さ12mm
※必ず薄下枠に接着剤を付け、躯体に固定してください。

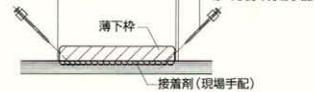


●床材厚さ15mm
※必ず薄下枠と下地材に接着剤を付け、躯体に固定してください。



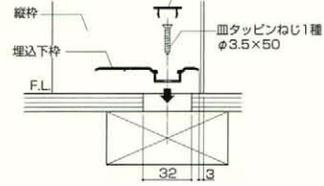
(床先張り(枠後付け)の場合)

●床材厚さ15mm
※薄下枠は接着剤を塗布し、かくし釘等で固定します。



(埋込下枠の場合)

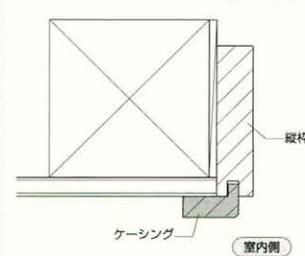
●埋込下枠を縦枠下部ケースにはめ込み、縦枠室内側端部から3mmの位置にねじ止めし、溝プタをはめ込みます。



●ケーシングの取付け

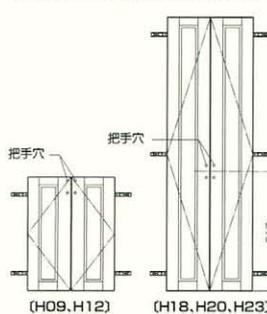
組立てた枠を開口部に入れます。次に縦枠にケーシングを差込み、枠の固定位置を確認します。
※ケーシングの足が短い場合、後で調整することができません。このため、位置出しは確実に行ってください。
※ケーシングは、位置出しのためですから、固定はしないでください。

収納内部側

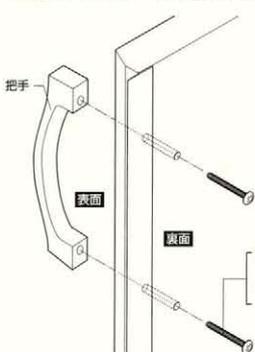


③ 扉の吊込み

●扉の左右勝手の確認
●H09、H12は把手穴が上になります。
●H18、H20、H23は、下端より上下把手穴中心までの寸法が917mmになります。

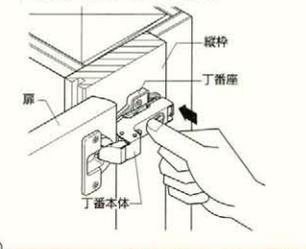


② 把手の取付け
※把手セットは本体に同梱されています。

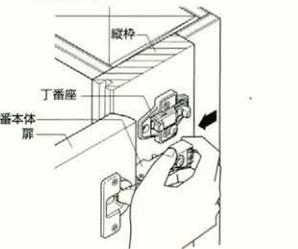


③ 扉の吊込み条件

●扉の丁番本体を縦枠の丁番座にセットし、上から押込むだけで簡単にセットできます。



●取外す場合は、先端のスイッチ(黒色)を押込むと外れます。



▲注意

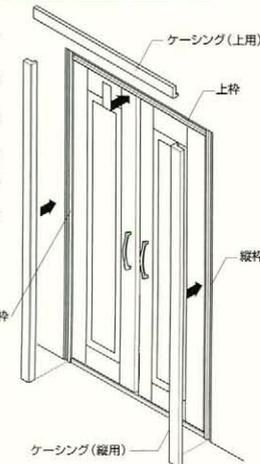
●扉の吊込みを行う場合は、扉の丁番カップがキャビネット側の座に「カチャ」と音がするまではめ込んでください。扉の落下の原因となります。

※H18(3枚用)、H20、H23(4枚用)の場合、最初に中間の丁番を取付けてから、端部の丁番を取付けてください。
※扉を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。

④ ケーシング枠の取付け

※壁材・床材を仕上げた後からケーシングを取付けてください。

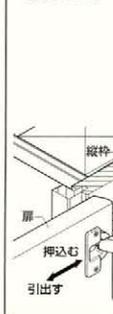
① 別梱のケーシングを現場寸法に合わせて切します。
② 枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。
③ ケーシング溝とケーシング裏面に接着剤を塗布し、ケーシングを固定します。
※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。



⑤ 扉の建付け調整

(扉の前後調整)

●調整範囲
前方向2mm
後方向1mm
(合計3mm)



(扉の左右調整)

●調整範囲
(合計±2mm)



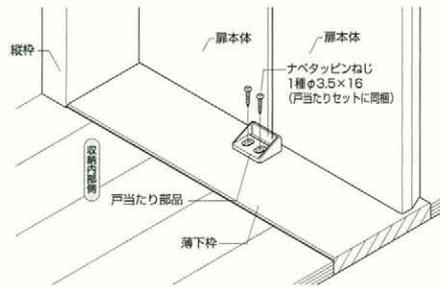
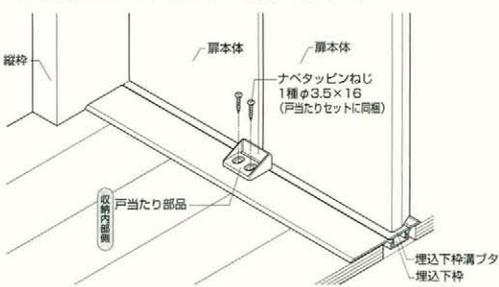
(扉の上下調整)

●調整範囲
(合計±1.5mm)



6 下部戸当たりの取付け

①扉を枠に吊込み建付け調整を行なった後、戸当たり部品をなべタッピンねじ1種φ3.5×16（枠部品セットに同梱）で固定します。



7 戸当たり部品の調整

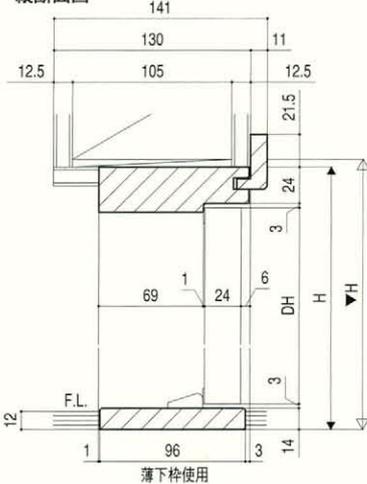
①扉の建付け調整を行なった後、扉を閉めて戸当たり部品とあたっていることを確認してください。
※扉と戸当たり部品があたらない場合は、戸当たり部品取付けねじをゆるめ調整してください。
(調整範囲：奥行方向に±1.5mm)



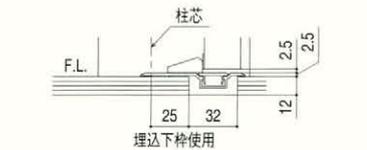
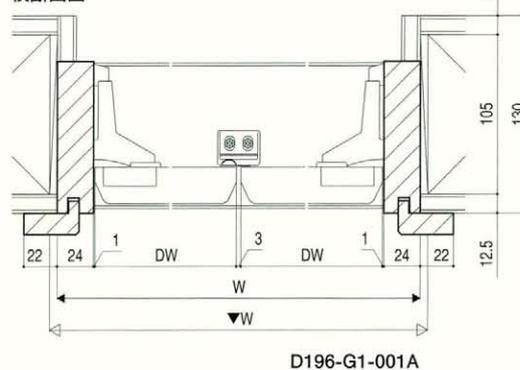
参考納まり図

〈標準納まり図〉

縦断面図

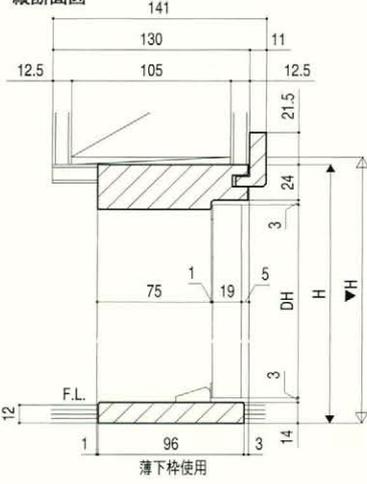


横断面図

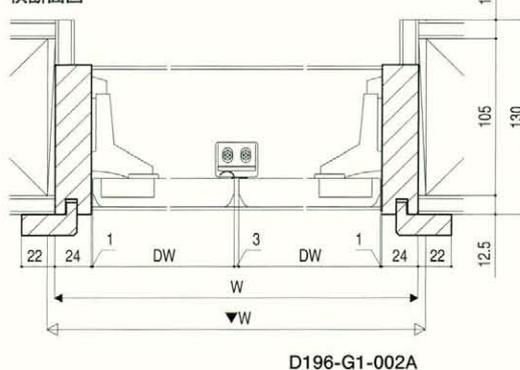


〈階段下納まり図〉

縦断面図



横断面図



形材一覧表

部材名称	形材番号	枠幅寸法
縦枠	968	100
上枠	967	99
薄下枠	1235	96
埋込下枠	1242	69
溝フタ	1014	19.5

※ケーシングにつきましては、P.87をご参照ください。

形材一覧表

部材名称	形材番号	枠幅寸法
縦枠	968	100
上枠	966	99
薄下枠	1235	96
埋込下枠	1242	69
溝フタ	1014	19.5

※ケーシングにつきましては、P.87をご参照ください。

商品特長 商品一覧

室内ドア

室内引戸

可動
間仕切り

クローゼット
ドア

玄関収納

造作材
(DS窓枠)

造作材
(定尺材)

腰壁

収納

手すり

規格表

室内ドア

室内引戸

可動
間仕切り

クローゼット
ドア

玄関収納

造作材
(DS窓枠)

造作材
(定尺材)

腰壁

収納

手すり

有償部品

特注対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引